

宮城県のがん罹患における検診発見症例の寄与

西野 善一* 坪野 吉孝 久道 茂 渋谷 大助

1. 目的

宮城県のがん罹患に対する、検診発見症例の寄与とその年次推移を検討した。

2. 対象と方法

宮城県新生物レジストリーに登録された1993 - 1997年の罹患症例 44,548例を対象とした。調査票の診断契機に関する5項目の選択肢のうち、「集団検診」と「健康診断」の二つを合わせて「検診発見症例」とし、他の「剖検」「その他」「不明」を合わせた全体数に対する割合を算出した。市町村による集団検診が実施されている部位(胃・結腸・直腸・肺・子宮頸部・子宮体部・女性乳房)については、1978 - 1997年の年次推移も算出した。この際、子宮頸部は上皮内がんと浸潤がんの双方を集計に加え、他部位は浸潤がんのみを集計対象とした。

3. 結果と考察

1993 - 1997年における、主要部位の検診発見症例割合を表1に示す。主要全部位の検診発見割合は16.3%であった。集団検診が実施されている部位のうち、子宮頸部(45.8%)、胃(24.4%)、結腸(22.8%)、肺(22.0%)、直腸(19.3%)では、この割合が比較的高かったのに対して、女性乳房(16.3%)および子宮体部(9.8%)では、比較的低かった。集団検診が実施されていない部位の中では、甲状腺(35.7%)、腎およびその他の泌尿器(12.6%)

において、検診発見症例の割合が比較的高かった。

集団検診が実施されている部位の検診発見症例割合について、1978 - 1997年の推移を図1に示す。全期間での割合は、子宮頸部(40.0%)が最も高く、肺(22.9%)、胃(22.2%)、女性乳房(15.2%)、結腸(12.9%)、直腸(9.8%)、子宮体部(8.7%)の順に続いた。結腸と直腸

表1. 検診発見症例割合
1993-1997, 宮城県新生物レジストリー

部 位	%
全部位 ¹⁾	16.3
口唇、口腔および咽頭	0.7
食道	9.4
胃	24.4
結腸	22.8
直腸	19.3
肝および肝内胆管	5.8
胆嚢および肝外胆管	2.9
膵	1.9
喉頭	3.8
気管、気管支および肺	22.0
皮膚	0.4
女性乳房	16.3
子宮 ¹⁾	34.8
(再掲)子宮頸 ¹⁾	45.8
(再掲)子宮体	9.8
卵巣	4.9
前立腺	2.2
睾丸	1.0
腎およびその他の泌尿器	12.6
膀胱	5.3
脳およびその他の神経系	0.3
甲状腺	35.7

¹⁾子宮頸部の上皮内癌を含む

*宮城県新生物レジストリー委員会

〒980-0011 仙台市青葉区上杉 5-7-30 宮城県対がん協会内

については、大腸がん検診が老人保健法に基づく保健事業として導入された 1992 年の翌年にあたる 1993 年から、急激に増加していた。他の部位では、おおむね横ばいであった。

集団検診が実施されている部位のがん罹患に対する検診の寄与程度は、結腸・直腸では急激な変化が見られたが、他部位では最近 20 年ほぼ一定であることが示唆された。

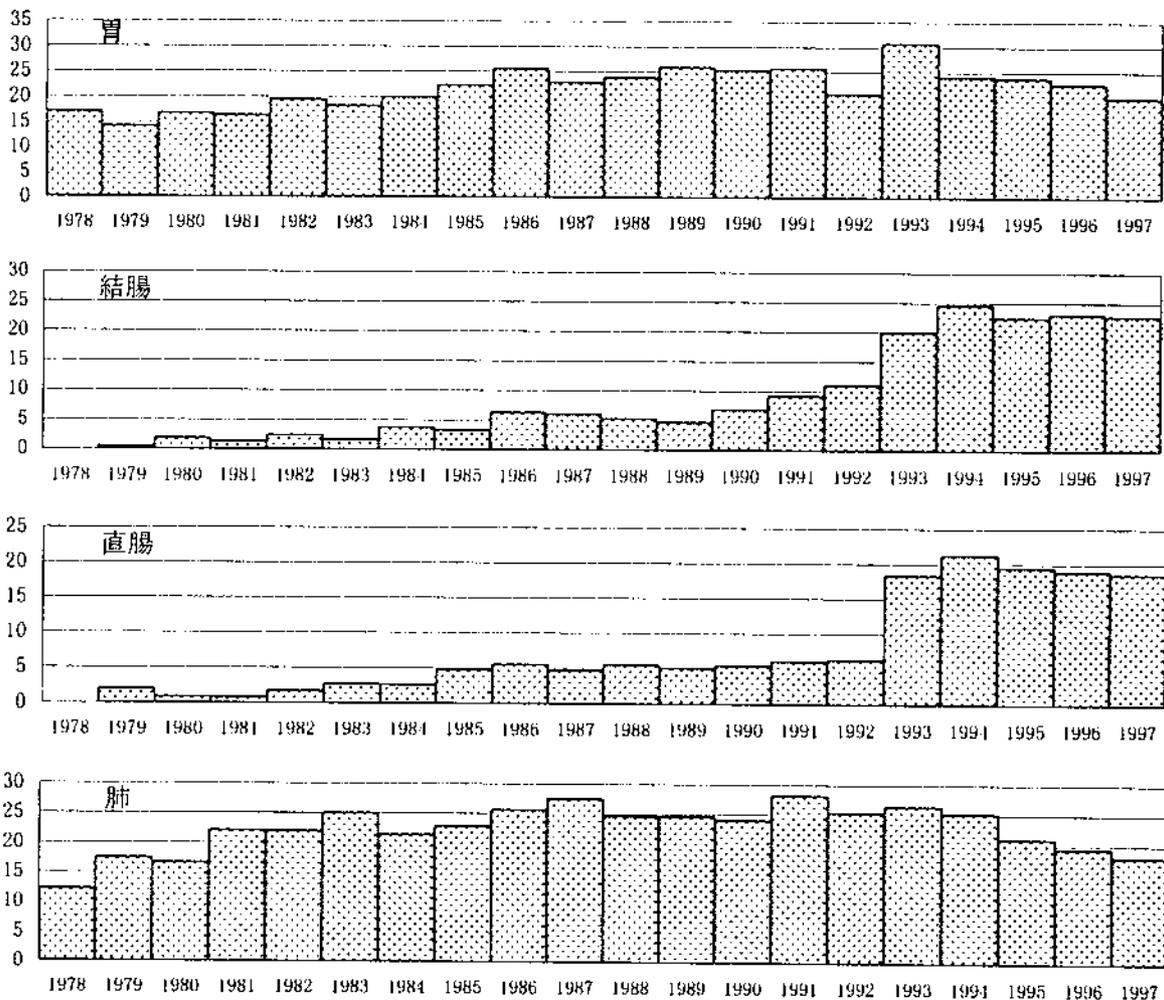


図 1. 検診発見割合の年次推移

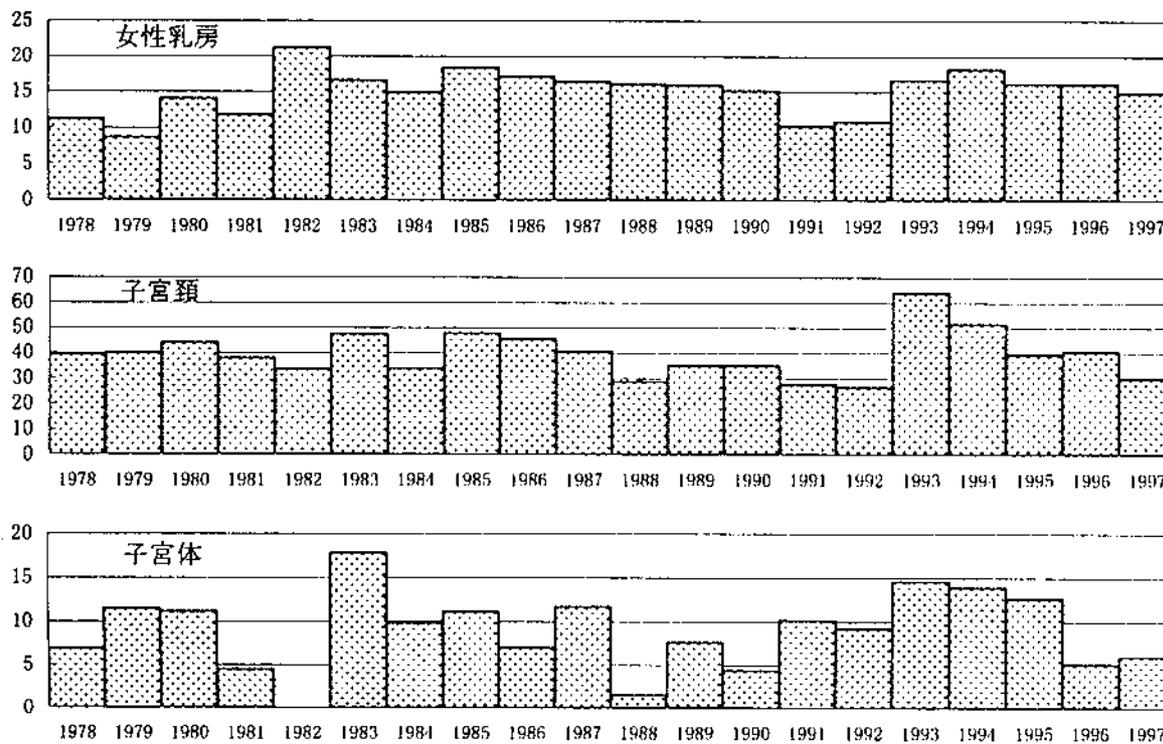


図 1. 検診発見割合の年次推移